

情報・システム研究機構経営協議会（平成29年度第4回）議事要旨

日 時：平成30年1月26日（金）10:00～12:00

場 所：情報・システム研究機構会議室

出席者：安宅和人委員、五十嵐道子委員、國井秀子委員、椿広計委員、長谷川真理子委員、古谷研委員、安浦寛人委員、藤井良一委員（議長）、津田敏隆委員、樋口知之委員、桂勲委員、中村卓司委員、喜連川優委員

オブザーバー：鈴木監事、横山監事

陪席者：本部事務局・研究所事務担当者

議事に先立ち、議長より、本会の成立要件の確認があった。

議 事：

【審議事項】

(1) 平成30年度予算編成方針（案）について

成田財務課長より、資料2に基づき説明があり、審議の結果、教育研究評議会でも審議の上、役員会にて審議することが了承された。

(2) 組織運営規則の一部改正について

小野寺総務課長より、資料3-1～3-4に基づき説明があり、審議の結果、教育研究評議会でも審議の上、役員会にて審議することが了承された。

<意見概要>

- CSIRTについては、数分での決定を要求されるため、体制を整備するだけでなく、実際に機能するCSIRTを作ることが最も重要である。攻撃をしかける側も、日本のネットワークを守っているプロ集団であるという認識をもってNIIや機構を攻撃してくる可能性があるため、なおのこと人と予算を適切に配分し、実際に動けるように体制を整えておくべきである。
- ROIS CSIRTは、従前は機関ごとに対応していた情報セキュリティインシデントに対して機構一体で対応するようにしたことで、情報共有が図られるようにしたことに加え、情報研の専門家からアドバイスを受けられるようにしたものである。設置後、これまでに実際にROIS CSIRTが機能し適切に対応できることが増えている。
- この機構は国のアカデミア情報の要であるため、概算要求してCSIRTを設置し、しっかり守るべきである。

- 広報室の設置については、情報を一本化して機構として発信していくことは、プレゼンスを高める意味でも重要であり、評価にもつながると思うので、今後の活動に期待したい。
- 現時点では、機構 HP の改訂や各機関の横串を通したプレス発表の仕組みを整理することを予定しており、活動状況については適宜報告をさせていただきます。

(3) 就業規則等の一部改正について

小野寺総務課長より、資料 4-1、4-2 に基づき説明があり、審議の結果、教育研究評議会でも審議の上、過半数労働者に意見照会の後、役員会にて審議することが了承された。

【報告事項】

(1) 平成 30 年度国立大学法人運営費交付金等予定額の伝達について

成田財務課長より、資料 1 に基づき報告があった。

<意見概要>

- 見せ方によって文部科学省の評価は大きく変わる印象があるので、プレゼンスを示す際には出し方を工夫してはどうか。
- 今回の予算の評価は、機構として特筆すべきところがあったか否かが結果に影響した。当機構は全体的に良い評価ではあったが特筆すべきところがなかったため減額となった。次期においては自分たちの売れるところを作って差別化を図りたい。

- 高い評価を得るためには、具体的には何をしたら良いと考えているか。
- 機構の強みを認識し、計画案を作成する際に、強調する点や方向性を明確にしていくことが大事であるとする。

- 文部科学省や財務省などが何を求めているかをリサーチし、自分たちが良いと思っていることとすり合わせる必要があるのではないか。
- まず、現在の社会で大きく取りざたされているソサイエティ 5.0 に関連するものを整理して進めていきたい。

- 評価がいろいろあるが、その評価が何に影響するのかがわからない。
- 次回の経営協議会において、機構が受ける評価について一覧に整理して報告する。

(2) 平成 28 事業年度業務実績に係る評価結果について

津田理事より、資料 5-1～5-5 に基づき報告があった。

(3) 損害賠償請求について

成田財務課長より、資料 6 (回収資料) に基づき報告があった。藤井機構長より、二度とこのようなことが起きないようにシステムとして再発防止に取り組んでいきたいとのコメントがあった。

(4) 研究所活動状況報告 (国立遺伝学研究所)

桂所長より、資料 7 に基づき報告があった。

<意見概要>

- 助教には 10 年の任期を付けているとのことだが、その方々が活発に外部機関に移れるような施策はあるのか。
→ 昨年度にキャリアアップのセミナーを開催した。授業、学生指導、入試への参加など、教育経験を積んで大学に移れるように配慮している。企業の研究所の紹介も行っている。また、研究室においては、助教の方はいずれ出ていくことを前提に助教独自の研究テーマを設定するよう研究室の長にお願いをしている。

- 昨年、大学院教育について総研大生の何人かにヒアリングをしたところ、いろいろなセミナーがあり研究所間の壁を越えた自由な議論はあるが、日常的に顔を合わせて交流することはないということだった。若い人がつながりを持ち続けるコミュニティを作ることは大事なので、もっと研究所が学生に介入しても良いのではないか。
→ そもそも学生同士のコミュニティ作りに教員が介入して良いのかという議論があった。遺伝研の学生はデータをたくさん出したいという思いから研究室にこもりがちであるのも原因の一つであると考え。運動部がいくつかあり、また学生とポスドクで時々パーティを企画しているが、それに参加する学生としない学生の両方がいる。大学院生室があるが、有効に利用されているとは言い難い。いずれにせよ、学生の不安感が限度を超えないよう気を配っていくことが大事だと考えている。

【自由討論】

- 助教のキャリアパスについて、大学における教員採用では教育ができる人のプライオリティが上がっている。統数研では年 1 回助教全員と面談し、本人の特性を踏まえ、大学にとって魅力のある人材に育てるようにアドバイスしている。

- スパコンや次世代シーケンサーといった大型設備について、研究所として、あるいは機構として今後どのように維持、管理をしていくかという長期ビジョンはあるか。
- 例えば機構として研究所毎に複数あるスパコンを統合することで効率化を図るといった検討を始めている。併せて、設備の維持、管理に関するマスタープラン策定へ向けた議論を進めるために、研究者コミュニティの共同利用・共同研究の要請に応えるには、各々の設備がどの程度のレベルでなければならないのかというデータを出すよう研究所に依頼をしている。

- 大学共同利用機関が用意するものと各大学が用意しなければならないものは時代によって変わってくると思うので、機構としてどのようなプランを持ち、各大学は何を自分たちで用意しないとイケなくて、どういう研究では大学共同利用機関の設備を利用すれば良いのかというディレクションを示してはどうか。

- 日本のトップサイテーション論文の順位が落ちており、論文力の低下が気にかかっている。国の中心たる研究機関として機構の役割は重要であるので、次回以降に、現状の整理と機構がすべきことを議論していただきたい。

(次回の経営協議会の日程について)

- ・ 次回の経営協議会は、3月20日(火) 10:00から開催の予定。

以上

《配付資料》

- ・ 前回議事要旨
- ・ 平成 30 年度国立大学法人運営費交付金等予定額の伝達について……【資料 1】
- ・ 平成 30 年度予算編成方針（案）について……【資料 2】
- ・ 組織運営規則の改正について（案）……【資料 3-1】
- ・ ROISCSIRT（情報セキュリティインシデント発生時の対応体制）……
……【資料 3-2】
- ・ 情報・システム研究機構組織運営規則（新旧対照表）……【資料 3-3】
- ・ 情報・システム研究機構組織運営規則（案）……【資料 3-4】
- ・ 就業規則等の改正事項（案）……【資料 4-1】
- ・ 新旧対照表（案）……【資料 4-2】
- ・ 平成 28 年度に係る業務の実績に関する評価の結果について（通知）……【資料 5-1】
- ・ 平成 28 年度に係る業務の実績に関する評価結果 大学共同利用機関法人情報・シ
ステム研究機構……【資料 5-2】
- ・ 平成 28 年度に係る業務の実績に関する評価結果等について……【資料 5-3】
- ・ 国立大学法人・大学共同利用機関法人の平成 28 年度に係る業務の実績に関する評価
について（所見）……【資料 5-4】
- ・ 国立大学法人等の平成 28 年度評価結果について……【資料 5-5】
- ・ 損害賠償請求について……【資料 6】
- ・ 国立遺伝学研究所の概要……【資料 7】
- ・ 平成 30 年度 情報・システム研究機構会議予定表（経営協議会）……【机上配布】
- ・ 情報・システム研究機構 メディア掲載記事一覧（平成 29 年 10 月 1 日～平成 29 年
12 月 31 日）……【机上配布】
- ・ 機構合同シンポジウムチラシ……【机上配布】